

Lesson 4 Malala: Fighting for Women's Rights

■マララの生まれた「清浄なる国」パキスタン

インダス文明発祥の地、パキスタン。文明の興ったインダス川流域は農業地帯で、さとうきび、小麦、米、トウモロコシの栽培がさかんに行われています。食料自給率は100%を超えており、人口は約1億8千万人（世界第6位）、国土は日本のおよそ2倍と大きな国です。

東にインド、西にイラン、南にアラビア海、北にアフガニスタンが位置していることから、昔からこの国の中で様々な文明が行き交いました。多種多様な民族が暮らしているのはそのためです。紀元前6～11世紀にはガンダーラ王国があり、華麗な仏教文明が栄えていました。現在のパキスタンの国教であるイスラム教が伝来したのは8世紀ごろだと言われています。現在のパキスタンは1947年に英領インドから独立して建国されました。「清浄なる国」アフガニスタン（Afghanistan）に隣接するカイバ、バローチスタン州のTANと、5つの地域（行政区）

パキスタン・イスラム共和国の基本情報

面積	796,000 km ²
人口	約1億8,802万人
首都	イスラマバード
民族	パンジャブ人、シンド人 パシュトゥーン人、バローチ人
言語	ウルドゥー語（国語）、英語（公用語）
宗教	イスラム教（国教）
通貨	パキスタン・ルピー
換算レート	1米ドルは約100ルピー（2015年）

出所：外務省HP

生徒用資料集は、授業の興味付けに役立つ Lesson のトピックに関連した読み物です。

■マララ銃撃の背景にあるもの

パキスタンとアフガニスタンの国境付近には、もともとパシュトゥーン人が住んでいました。しかし彼らの住んでいる土地を考慮することなく、19世紀にイギリスがパキスタンとアフガニスタンとに分けてしまいました。そのため、独立後もその地域の人々は国境線を無視した往来を続けています。

アフガニスタンが紛争の絶えない地域になったのは、1979年のソ連によるアフガニスタン侵攻に端を発します。この侵攻に東西冷戦も絡んでいき、その中で国際テロ組織も生まれるようになり、混乱を極めました。行き場を失った住民の多くはパキスタンへ逃げ、難民の子どもたちは逃げ込んだ地域の学校に通いましたが、その一部は極端なイスラム原理主義の団体が設立した神学校でした。

そこで教育を受けて過激な思想に染まったまま成長した子どもたちを都合良く利用するかのように、パキスタンは学生らに最新の兵器を大量に与えてアフガニスタンへ送り込みました。ソ連撤退後の混乱状態にあるアフガニスタンの政権を奪うためです。これがイスラム原理主義過激派の武装勢力タリバンの始まりだと言われています。タリバンとは、本来は「学生」という意味なのです。

マララを襲ったのは、このアフガニスタン・タリバンに触発されてつくられたパキスタン・タリバンの若者です。他にもアメリカで起きた同時多発テロを始め、様々なイスラム系のテロ組織の名前をニュースで聞くことがあるかと思います。しかし、武力で人々を制圧しようとするイスラム原理主義過激派はイスラム教徒のごく一部であり、イスラム教徒のほとんどは平和的であることを忘れてはいけません。

